

(6) 学びに向かう力・人間性等を高める実践

小学校 第5学年 学級活動

● 題材名 食べ物を大切にしよう

● 本時の目標

- ・ 食品ロスの現状を知り、食べ物を大切にしようとする気持ちを持ち、自分や家族の生活の中で、食品ロスを減らそうとする。(学向・人間性)

● 食育の視点

- ・ 食品ロスの少ない食生活を実践することで、食に関して感謝の気持ちを表現しようとする態度を養う。(感謝の心)

● 本時に関連する食に関する指導の学習計画(全30時間)

【給食の時間】「感謝して食べよう」

- ☆ 食べものを大切にし、食に関わる人々に感謝する気持ちを持ち、残さず食べようとする。(感謝の心)

【社会科 24時間】

「わたしたちの生活と食料生産」

- ☆ 食料の生産は日本各地の自然の恵の上に成り立っていることを知り、食料の生産等に関わる人々に対する感謝の心をもつ。(感謝の心)

- ・ 暮らしを支える食料生産(4時間)
- ・ 米づくりのさかんな地域(8時間)
- ・ 水産業のさかんな地域(7時間)
- ・ これからの食料生産とわたしたち(5時間)

【学級活動】

「食べ物を大切にしよう」(本時)

- ☆ 食品ロスの少ない食生活を実践することで、食に関して感謝の気持ちを表現しようとする態度を養う。(感謝の心)
- ・ 日本の食品ロスの現状を知る。
- ・ 捨ててしまう原因を探り、食品ロスを減らす工夫を話し合う。
- ・ 食品ロス削減に取り組む。



【国語 5時間】「資料を見て考えたことを話そう」

- ☆ 食品ロスに関する資料の読み取りを通して、日本や世界の食料問題に関心を持ち、食べ物を大切にすることを話そう。(感謝の心)

● 教科等との関連

「ごみのしよりと再利用」(社会3年生)

● 本時の展開

学習内容	時間	指導上の留意点 支援(○)・評価(☆)		資料等
		T1	T2	
<p>1 事前に調べてきた食べられるのに捨ててしまっている物の写真を見せ、紹介する。</p> <p>2 食品ロスの現状を紹介した動画を見る。</p>	10分	<p>○ 食品ロスに関心をもたせるため、事前に、食品ロスになっている物をタブレットで写真にとらせておく。</p> <p>○ 家庭から出る食品ロスが全体の約半分を占めていること、家庭のほかにも外食やスーパーなどでも食品ロスが出ていることを押さえる。</p>	<p>○ 食品ロスには、食べ残しや、賞味期限切れなどがあることを確認する。給食の残食にもふれ、泣いているろすのんを紹介する。</p> <p>○ 国民1人が1日にごはん茶碗1杯分130g(実物を見せる)1年間で47kgの食品ロスを出しており、これは全世界の食料援助量の約2倍であることを伝える。</p>	<p>泣いているろすのん</p>  <p>「食品ロスを考えよう」(東京都動画3分版)</p> <p>130gのごはん</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">食べ物を大切にしよう</div>				
<p>3 食品ロスが起きている原因を考える。</p> <p>4 食品ロスを減らす方法を話し合い、発表する。</p>	<p>5分</p> <p>20分</p>	<p>○ どうして捨ててしまうことになったのか、その原因を考えさせる。</p> <p>○ 学校、家庭、外食などの場面で考えるように促す。</p> <p>☆ 食品ロスを減らす工夫を考えることができたか。(話し合い・ワークシート)</p>	<p>○ 給食や家庭での様子を考え、好き嫌いなどの食べ方や買い物の仕方、外食した時の様子に着目し、ろすのんを笑顔にする具体的な方法について考えるよう助言する。</p>	<p>【資料1】笑っているろすのん</p> 
<p>5 家庭での食品ロスを減らすために、実際に自分や家族が取り組むことができることを考える。</p>	10分	<p>○ 家庭での食品ロスを減らすために、①自分に取り組むこと、②家族に伝え、家族で取り組むことを買い物や料理、食事の様子から、考えさせる。</p> <p>☆ 自分や家族が取り組むことを考えることができたか。(ワークシート)</p>	<p>○ 取り組みやすくなるため、自分や家族に限定して取組内容を考えさせる。</p> <p>○ 考えが思いつかない児童には、具体的に助言する。</p>	



● 本時の評価規準

- ・ 食品ロスを減らそうと生活を振り返り、自分や家族が取り組むことを考えようとしていたか。(主体的学習態度)

食べ物を大切にしよう

5年 組 番 名前 _____

- 1 食品ロスの原因を考え、ろすのんを笑顔にするにはどうしたらよいかをグループで考えましょう。

食品ロスになっているもの	原因 	どうすれば捨てずにすむか 
給食の食べ残し	苦手なものを残している。	苦手なものも食べるようにがんばる。
賞味期限が切れたおかし	食べられると思い、買い過ぎてしまった。	食べられる量を買うようにする。
食べ切れなかった夕食のおかず	たくさん作り過ぎている。 食べ残している。	作り過ぎないようにする 次の日も食べる。
傷んでしまった野菜	買い過ぎている。	使い切れる量の野菜を買うようにする。
にんじんやだいこんの皮、葉	食べられるのに、料理しないで捨てている。	料理方法を工夫して食べるようにする。
外出したときに食べ切れず、残してしまった料理	料理の量が多い。 注文し過ぎた。	小盛にするようお店に頼む。 注文し過ぎないようにする。

※「ろすのん」は、食品ロス削減国民運動のロゴマークです。

2 どうしたら食品ロスを減らすことができるでしょう。自分や家族ができることを考えましょう。

	取組内容	日付	○×
自分が取り組むこと	・おかしを買うときは、食べられる量を買う。		
	・給食は好き嫌いをせず、残さず食べる。		
	・家のごはんを残さずに食べる。		
家族に伝え、家族で取り組むこと	・余ったおかずは次の日に食べる。		
	・野菜の皮も料理に使ってもらう。		
	・食べきれなかった食材は冷凍して保存する。		
	・買い物する時は、冷蔵庫のなかをチェックして余分に買わないように気を付ける。		

3 取り組んだことを振り返ってみよう。

- ・給食をみんなが残さずに食べれば、残食がなくなり食品ロスを減らすことができるので、これからも残さずに食べていきたいと思った。
- ・残ったごはんやおかずは、冷凍保存したり次の日に食べたりするようにしたら、捨てずにすんだ。
- ・家の人にたくさん買わないようお願いしたら、賞味期限までに使い切ることができた。
- ・食べ残し、買い過ぎや作り過ぎないように気を付けると、捨てる食べものが減ることが分かったので、家族と協力して食品ロスを減らそうと思う。

● 事前指導として実施

小学校 第5学年 学級活動と連携した給食の時間の指導

● 題材名 感謝して食べよう

● 本時の目標

- ・ 給食の残食を減らす方法を工夫し、感謝の気持ちをもって食事をしようとしている。(学向・人間性)

● 食育の視点

- ・ 食べ物を大切にし、食に関わる人々に感謝する気持ちをもち、残さず食べようとする。(感謝の心)

● 本時の展開

学習内容	時間	指導上の留意点 支援(○)・評価(☆)	資料等
1 給食センターで残食を片付けている動画を見て、残った給食はどうなるのか考える。	3分	○ 給食センターで残食を片付けている動画を視聴させ、クラスでは少しでも、給食センター全体では、たくさんの残食になり、食品ロスになっていることに気付かせる。	給食センターの片付けの動画 残食量のグラフ
2 残してしまう原因を考える。	5分	○ 残してしまう原因(好き嫌い、量が多い、時間がないなど)を考えさせ、このままでよいのか問いかける。 ○ わがままや好き嫌いで残していないか振り返らせる。	
3 残食を減らす作戦を考える。	7分	○ 給食センターの調理の様子を見せ、給食が出来上がるまでには、多くの人の手がかかっていること、栄養バランス等が考えられて作られていることに触れ、具体的にどのような作戦を立てるとよいかを考えさせる。 ☆ 給食の残食を減らす方法を考え、取り組もうとしている。(発言) ☆ 食べものを大切にし、食に関わる人々に感謝の気持ちをもって残さず食べようとしている。(発言・観察)	調理の様子 の動画

● 本時の評価

- ・ 給食の残食を減らす作戦を具体的に考えようとし、残さず食べていたか。(主体的学習態度)

- **題材名** どうすれば、みんなに優しい食生活ができるだろう
- **本時の目標**
 - ・ 世界の食料事情と日本の食品ロスの問題点に気付き、自分の食生活を振り返って、毎日の食生活の中でできる対策を考え、それを実践しようとする態度を養う。
(学向・人間性)
- **食育の視点**
 - ・ 健康で安心な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。(社会性)
- **本時に関連する食に関する指導の学習計画(全8時間)**

【社会科・公民 2時間】

「持続可能な社会の実現に向けて」

「グローバル化—結び付きを深める世界」

- ☆ 食料や健康に関する目標が、SDGsに含まれていることを知る。(社会性)
- ・ 現代社会の課題や持続可能な社会について考え、地球規模の課題とその解決に向かう、17の領域の目標があることを理解する。(1時間)
- ・ グローバル化の進展で、生活の利便性が向上した点と、新たな課題をとらえ、日本の食料自給率の問題点に気付くことができる。(1時間)

【学級活動】

「どうすれば、みんなに優しい食生活ができるだろう」
(本時)

- ☆ 健康で安心な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。(社会性)
- ・ 世界と日本の食品廃棄量を知り、身近な食品ロスである、給食の食べ残しに着目する。
- ・ 毎日の食生活で取り組める食品ロス対策を考え、実践しようとする意欲をもつ。

【道徳 1時間】

「ハゲワシと少女」

- ☆ 世界で起きている飢餓問題に目を向ける。(食事の重要性)
- ・ 写真を撮影し泣き続けた写真家の思いを理解し、自分たちにできることを話し合う。(1時間)

【技術・家庭科 3時間】

『私たちの食生活』『持続可能な食生活を目指して』

- ☆ 食生活を取り巻く問題を把握し、持続可能な食生活実現のために、何が必要かを考えることができるようにする。(食品を選択する能力)
- ・ 食品の安全性や食料自給率、食品の廃棄の現状を知り、よりよい食生活を実践しようとする。(3時間)

【給食の時間】

- ☆ 毎日の給食を通して、健康で安心な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。(社会性)
- ・ 給食での食品ロスを無くすため、出来ることを考える。

【社会科・公民 1時間】

「貧困問題—公正な世界を創る」

- ☆ 世界の貧困問題を食料供給の視点から理解し、自分事としてその原因を探る。(社会性)
- ・ ハンガーマップや、先進国の食品廃棄量と世界の食料援助量から、食料供給の偏りに気付くことができる。(1時間)

- **教科との関連**
「まだ食べられるのに」(道徳 2年生)

● 本時の展開

学 習 活 動	時 間	指導上の留意点 支援(○)・評価(☆)		資料等
		T1	T2	
1 本時の学習内容を知る。 2 世界の食料事情について、気付いたことを発表する。	8分	○ 授業のキーワードとなる数字をいくつか示し、何かを予想させる。 ○ 世界人口の9人に1人が飢えに苦しんでいることを知らせる。	77億人(世界人口) 8億人以上(飢餓人口) 13億トン/年(世界食品廃棄量) 612万トン/年(国内食品廃棄量) *農林水産省「aff」2020年10月号	数字文字カード ハンガーマップ
どうすれば、みんなに優しい食生活ができるだろう				
3 世界と日本の食品ロスの現状を知る。 4 身近な給食の食品ロスを理解する。 5 給食のできる「食品ロス」対策を考え、ワークシートに自分でできる取組としてまとめる。 6 Chromebookから「食品ロス」を検索し、給食以外の食品ロス対策で、自分が実行できる取組を考え、ワークシートにまとめる。 7 グループ活動で意見交換する。	37分	○ 先進国における食品ロスの現状を知らせ、問題提起をする。 ○ 分かったことをワークシートにまとめていくよう、指示する。 ○ 給食の食べ残しは、つけ分け残しで、増える傾向であることにも気付かせる。 ☆ 食品ロスについて理解できたか。(ワークシート) ○ Chromebookで農林水産省「食品ロス」のWebページを生徒に送信し、検索するよう指示する。 ○ 本時で学習した、先進国の食品ロスの現状も例に、できるだけ多くの取組を見つけられるよう、助言する。 ○ ワークシートにまとめた意見をもとにグループ活動させ、考えを深めさせる。	・生産及び流通のロス ・生産量と消費量の差による食品廃棄 ○ 給食を例に、食品ロスを説明し、学校全体の給食の食べ残し量から1人分を示し、対策は難しくないことを確認する。 ○ すべてつけ分けて食べることで、必要な栄養を摂取できることも伝える。 ○ Chromebookの操作に困っている生徒がいたら支援する。 ○ 食べ残しの他、無計画な買い物で、賞味期限切れになったり、腐ったりする場面も想起させ、家庭でできる対策にも着目させる。	ワークシート【資料1】 Chromebook
8 本時のまとめを発表する。	5分	○ 自分は何を取り組むかについて発表させる。 ☆ 自分の食生活を振り返り、具体的にできることを考えて実践していこうとする意欲をもつことができたか。(発表・ワークシート)		

● 本時の評価

- ・ 食品ロスの原因を理解し、日常生活の中で、自分にできることを具体的に考えて、自分の生活に生かそうとすることができたか。(主体的学習態度)

700人の
学校記入例

どうすれば、みんなに優しい食生活ができるだろう

3年 組 番 氏名

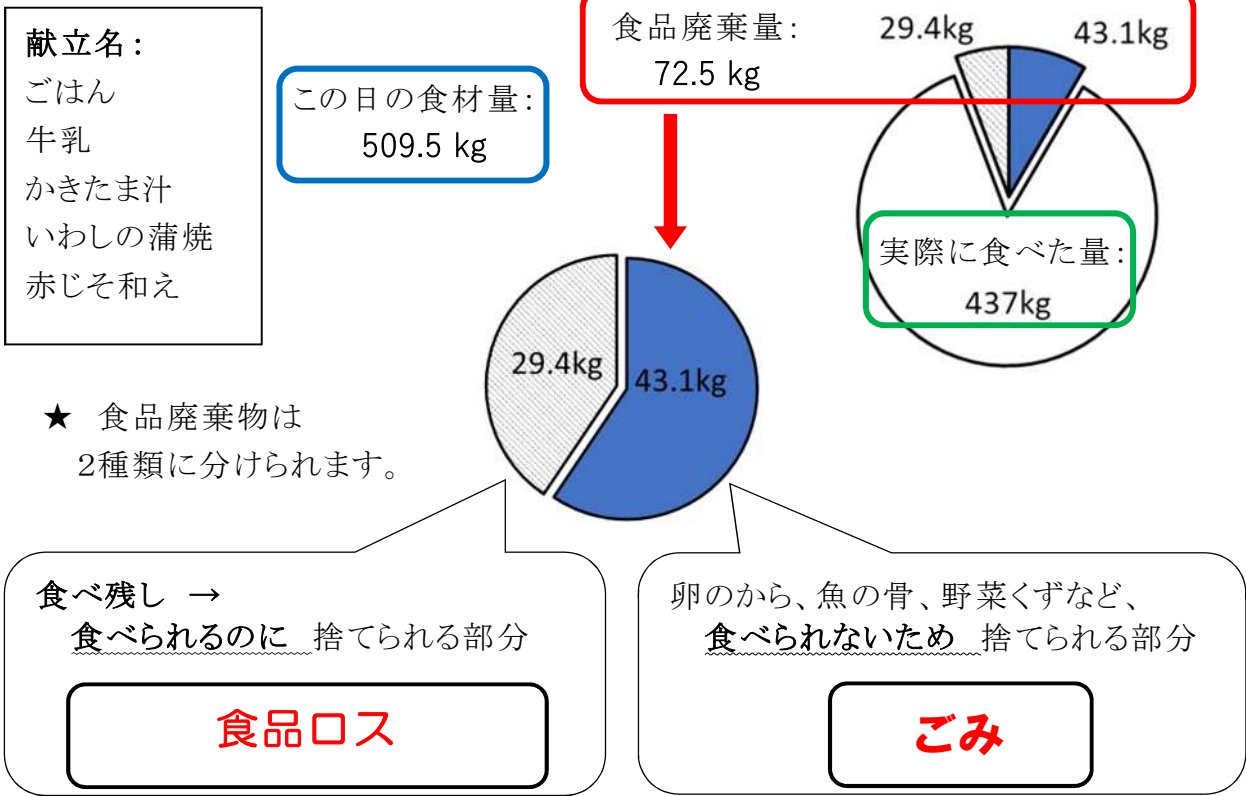
1 この数字は何を表しているでしょうか。

77億人(1 世界人口) 8億人以上(2 飢餓人口)
→ (1 世界人口) の9人に1人が 栄養不足 に苦しんでいる
13億トン/年 (3 世界食品廃棄量) 612万トン/年 (4 国内食品廃棄量)

2 日本を含む、先進国における食品ロスの原因は何が考えられますか。

Blank box for student response.

3 700人分の学校給食から、食品廃棄量について考えてみよう。



4 給食1人分の食品ロス(食べ残し量)について考えてみよう。

(g) ÷ 人数 = 食べ残し量(1人分/回)

ごはん 13kg (13,000g)	→	18.6 g	牛乳 6.2kg (6,200g)	→	8.9 g	おかず 10.2kg (10,200g)	→	14.6 g
--------------------------	---	------------------	-------------------------	---	-----------------	----------------------------	---	------------------

5 みんな(自分、世界の人々、環境など)に優しい食生活を送るために、できることを見つけて、実践してみよう。

①自分でできる取組、②家でできる取組、③社会全体で行う取組 に分けて、行動目標を設定しよう。

取組場面	取組内容	期待できる効果	行動目標	実践した日
例: ②	冷蔵庫の中を確認して、買い物に行く	賞味期限切れによる廃棄の削減	今週末から 買い物ごと	○/△(土) ○/□(日)
①	給食を残さず食べる	給食の食品ロス削減	今日から 毎日	○/○~ 毎日

6 今回の学習や取組について、振り返ってみよう。

- 買うものを確認して買い物をすると、余分なものを買わないので、食べきれずに捨てるものが減った。お金の無駄遣いも減って、おさいふにも優しい。
- 給食を残さず配ったら、食べ残しが減った。栄養バランスも整うし、意外と簡単だったので続けたい。

7 今回の取組をおうちの方にも知らせ、感想をインタビューしてみよう。

- 子どもの学習を通して、家庭での買い物について一緒に実践することができました。
- いつもは残しがちな、夕食の付け合わせの野菜も食べてくれました。

●事後指導として実施

中学校 第3学年 学級活動と連携した給食の時間の指導

● 題材名 食べ物を大切にし、残さず食べよう


● 本時の目標

- ・ 世界や日本の食糧事情を理解し、食べ物を無駄にせず、これからも給食を残さず食べようとする態度を養う。(学向・人間性)

● 食育の視点

- ・ 毎日の給食を通して、健康で安心な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。(社会性)

本時の展開

学 習 活 動	時 間	指導上の留意点 支援(○)・評価(☆)	資料等
1 今日の給食に使われている食材の産地を確認する。	2 分	○ 今日の給食食材の産地を知らせ、国内外から運ばれていることを知らせる。	食材・産地を書いた資料
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 食べ物を大切にし、残さず食べよう </div>			
2 世界のハンガーマップから、誰もが恵まれた食事をしているわけではないことを理解する。	7 分	○ ハンガーマップを提示し、世界には飢餓に苦しむ人々がいることを再確認させる。	ハンガーマップ
3 給食での食品ロスの現状を振り返り、自分ができることを考える。		○ 学級活動で計算した、食べ残しの量を思い出させ、同じ量の給食写真を見せる。	学級活動時のワークシート拡大図
<ul style="list-style-type: none"> ・ 残さず食べる。 ・ 器に食べ物を残さず、きれいに返す。 			食べ残しの写真
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 給食の食品ロスの量は、意識すれば食べられる量であることを伝える。 ○ 一人一人ができることに取り組む姿勢が大切であることを思い出させる。 	
4 食べ物を無駄にしないよう残さず食べ始める。	1 分	○ 味わって最後まで食べるよう伝える。 ☆ 食べ物を無駄にしないよう、栄養バランスの整った給食を、残さず食べようとしているか。(観察)	

● 本時の評価

- ・ 食べ物を無駄にせず、残さず食べようとする態度を養うことができたか。(主体的学習態度)